

急性上腸間膜動脈閉塞症のカテーテル治療に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2025年1月16日～2026年3月31日

〔研究課題〕

急性上腸間膜動脈閉塞症に対するバルーンカテーテルを用いた血栓回収の有効性と安全性について

〔研究目的〕

急性上腸間膜動脈閉塞症に対してバルーンカテーテルを用いた血栓回収の安全性と有効性を明らかにします。

〔研究意義〕

急性上腸間膜動脈閉塞症は血栓が詰まることで腸管の血流が急激に低下する病態で、カテーテルを用いた血栓の回収が有効とされています。しかし治療中に血栓の一部が剥がれて飛散する合併症が知られており、当院ではその予防する手段として、血栓の手前をバルーンカテーテルという器具を用いて飛散しないようにする手法を行っています。本研究ではその手法の安全性と有効性を明らかにします。

〔対象・研究方法〕

2019年4月から2024年3月までの間に当院にて急性上腸間膜動脈閉塞症に対してカテーテル治療を受けた患者様が対象です。患者様の年齢・性別・画像所見・採血項目・治療後経過を電子カルテから抽出して検討します。解析は帝京大学医学部附属病院、北海道大学病院にて行われます。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院 放射線科学講座 研究代表者・研究責任者：氏名 渡辺 祈一 職名 助手

北海道大学病院 放射線診断科 研究責任者：氏名 工藤 與亮 職名 教授

〔個人情報の取り扱い〕

個人が特定できないようにデータを加工し、厳重に管理します。このように加工したデータを安全な方法で北海道大学に提供します。研究終了後は各研究機関の手順書等に則って保管の後に廃棄します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：氏名 渡辺 祈一

職名 助手

研究分担者：氏名 近藤 浩史

職名 教授

所属：放射線科学講座

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL：03-3964-1211（代表）〔内線 7785 〕